

(第3報) ビール麦の脱穀乾燥法に関する試験

上原 洋一・前田 虎之助

(鹿児島県農業試験場)

UEHARA, Y. and MAEDA, T.

(III) Studies on the Threshing and Drying Methods of Brewery Barley.

I. ま え が き

刈取時期と脱穀時期, ならびに自動脱穀機の回転数が品質におよぼす影響について 検討すると共に, 自脱コンバイン利用についても試験を行なったので, 第3報として報告する。

II. 試 験 方 法

供試品種 成城17号

第1表 自動脱穀機における試験区の構成

刈取時期	脱穀時期	扱割・回転数 ()内は周速度
適 期 前	刈取直後	360 (520)
	1日地干	
適 期	刈取直後	480 (693)
	1日地干	
適 期 後	刈取直後	560 (809)
	1日地干	

注, 供試機はキセキD3LKDF自動脱穀機

第2表 自脱コンバインにおける試験区の構成

項目 試験区	扱割回転数 r.p.m	吸引軸回転数 r.p.m	車 速
適 期 刈 取	330	1060	2 速
	430	1400	
適 期 後 刈 取	530	1600	〃

注, 供試機はキセキフロンテアHD-50

III. 成績および考察

脱穀時の穀粒水分(第3表, 第4表)によって, 脱穀後の剥皮粒, および発芽率に影響がみられた。

第3表 供試材料の水分含量(自脱)

調査時点 試験区	適 期 前		適 期		適 期 後	
	刈取時 %	脱穀時 %	刈取時 %	脱穀時 %	刈取時 %	脱穀時 %
直脱穀区	47.4	44.5	40.1	33.5	32.5	26.1
1日地干		43.0		26.5		21.7

第4表 供試材料の水分含量(自脱コンバイン)

項目 試験区	子 実	程
適 期 刈 取	39.4%	66.3%
適 期 後 刈 取	22.0	38.6

自動脱穀機における発芽率(第5表)は, 適期前では, いずれの脱穀時期, 回転数でも低く, 適期では水分33.5%の直脱区はよくない。適期1日地干区の水分26.5%になれば, 480回転以下であれば, 96%以上となり, 560回転ではよくなかった。適期後では360回転ではよいが, それ以上では低下している。

自脱コンバイン(第6表)では, 適期刈取区はいずれの回転数でもよくなく, 適期より6日おくらせた適期後刈取区においては430回転以下であればよい。

第5表 発 芽 調 査(自脱)

項目 試験区	適 期 前		適 期		適 期 後	
	直 脱	1日地干	直 脱	1日地干	直 脱	1日地干
360 rpm	71%	79%	80%	99%	96%	98%
480	64	61	62	96	91	93
560	36	40	47	86	68	88

第6表 発芽調査(自脱コンバイン)

項目 試験区	適 期 刈 取	適 期 後 刈 取
	330 rpm	91.5%
430	87.0	96.5
530	73.3	90.0

IV. む す び

自動脱穀機で脱穀する場合, 適期前刈取より適期以後に刈取り, 1日地干を行なって, 水分25%以下にさげ, 480回転以下で脱穀した方がよい。自脱コンバインを使用する場合, 高水分状態では, いずれの回転数でもよくなく, 22%前後であれば, 430(稲用)以下で使用するとよい。しかし, 立毛中, 22%前後にするためには, 刈取時期がおくれ, 色沢の劣化が問題となるので, 後期刈取と色沢の検討がさらに必要である。